

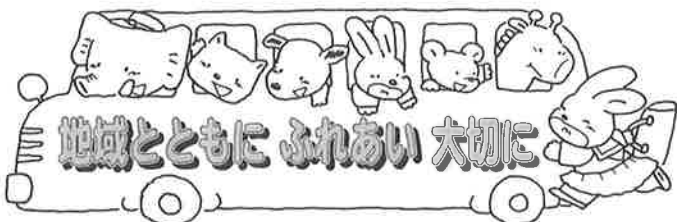
大阪府保育士会だより

平成24年9月1日

第91号

# ほほえみ

大阪府社会福祉協議会  
保育部会・保育士会  
大阪市中央区中寺1-1-54  
TEL 06-6762-9001



## 民舞や歌でお楽しみ



地域の老人会の方や園児の祖父母のみなさんに、毎年保育園に来ていただき、園児の民舞を観てもらったり、一緒にフォークダンスを踊って楽しんでいきます。保育園に来られない近隣の高齢者の方とは、日ごろ通っておられるデイサービスへこちらから出向き、手あそびや歌を一緒に楽しむなど交流を図っています。今後も、地域を大切に、老人会、警察や消防、地域の業者さんとも交流を深めていきたいと思っています。

(高石市 高石保育園)



## お茶会で学ぶ労りの心



世代間交流として、老人会とお花見給食会や伝承遊びの会などの交流会を年数回行っています。子どもたちが楽しみにしているのは自治会館でのお茶会。座布団に正座し、おばあちゃんたちに点でもらったお茶を静かにいただきます。「苦い！」と言いつつお代わりする子も。核家族化で高齢者に接する機会の少ない子どもたちに、保育士がおばあちゃんたちを敬い、いたわる姿を見てほしい、というのねらいの一つです。

(枚方市 天の川保育園)

## 子育て支援シリーズ③

# 季節作品づくりや泥んこ遊びを体験 多彩な未就学児の「親子教室」 保健師とも連携しフォロー



本庄保育園では、東大阪市の地域子育て支援事業の一つとして未就学児童の親子に参加してもらおう「園庭開放」と「親子教室」を行っています。園庭開放は月2回実施し、在園の1歳児や2歳児と一緒に体操や砂場で遊びます。

「親子教室」は春夏(5月~9月)コースと秋冬(10月~3月)コースの2つに分けて実施。年齢別の3クラス(0歳児、1歳児、2歳児)があり、それぞれのクラスの親子が月に1回、教室を利用。園へ足を運ばれるみなさん、たいへん楽しみにされています。

親子教室では季節の作品を親子で作製したり、園庭で裸足遊びや泥んこ遊びを体験、家庭ではなかなかできない遊びを提供するようにしています。

1クラスが10~15組程度。集団として見守りやすい人数で、地域担当保育士2人が毎回楽しい保育内容を考えます。1年を通して参加される方がほとんどで、回を重ねるごとにお母さん同士の輪が広がっているようです。

東大阪市の保健師とも連携。園に出張してもらい、

一緒に親子教室に参加し、お母さん方の相談の窓口にもなってもらっています。親子教室のあと、毎回保育士と保健師がミーティングを行い、育児不安のあるお母さんや発達が気になる子どもへのフォローについて意見を交換します。そのような機会を持つことで、在園の子どもだけでなく、地域の子育て事情を知ることができ、保育士の地域子育て支援に対する意識が高まると思っています。

園行事の「おやこまつり」や「夏祭り」「クリスマス会」に多くの地域の方が参加されるようになりました。子育て支援の広がりが感じられます。

(東大阪市 本庄保育園)



# 「絆サークル」実践し児童の成長につなぐ

## 振り返り・自己評価の共有が資質を高める

### 第2分科会 第3分科会

#### 24年度近畿ブロック保育研究集会 奈良大会

平成24年度近畿ブロック保育研究集会奈良大会が7月13、14の両日、900人を超える保育関係者が参加し、なら100年会館で開催されました。初日は全国保育協議会副会長の菊池繁信氏から「保育をめぐる国の動向と課題」について基調報告のあと、9分科会に分かれ研究発表が行われました。



「配慮を必要とする子ども」の保育の充実」をテーマにした第2分科会では、大阪府堺市の北野田保育園、川添ゆみ子氏、津留孝氏の両氏が「絆で深まる 子ども」の理解と育まれる成長」と題して発表。保育者は第一に子どもを信じること、さらに保護者と歩み寄ること、専門機関と協力することの重要性を指摘、みんなの心とつながれば、子どもの未来に夢が開かれるのではと強調されました。

このつながりを「絆サークル」と捉え、同サークルが幾重にも重なり機能した実践を報告、保育の充実とともに子どもの成長がみられたと力強く述べられました。帝塚山大学現代生活学部の清水益治教授から助言があり、保育の証拠を残すには記録がなく、個々の発達に応じた状況や行動とともに、考えや気になる点を伝えるための保育記録も大変重要と指摘されました。第3分科会では大阪府東

「保育士の専門性を高める連続研修会(園長・リーダー・主任保育士研修会)」が7月31日、8月8日、20日の各日、大阪府社会福祉会館で開催され155人が参加しました。

初日はかしわ保育園園長で児童精神科医の北畑英樹氏が「お母さんとうまく付き合っているか?」をテーマに、子どもにも与える影響は母親が強く、また子どもを良くしようと思えば母親の力は必要不可欠と指摘、現代の保育とは、子どもを健全に育てることに加えて母を「母親に育てる」ということだと強調されました。

午後からは、船井総合研究所の大嶽広展氏が「これからの保育園に求められる組織マネジメント」と題して講義。まず組織はマーケティングではなく、マネジメントが大切、保護者と子どもだけではなく、職員満足度も高めなければならぬと述べられました。特に園長と主任が同じ方向を向かなければよい組織は生まれにくいというこ

指摘され、大阪総合保育大学の大方美香教授(学部長)教授は「自己評価の取り組み」保育の振り返りおよび園全体の振り返りについて、自己評価をすることで保育の質が向上し、保育を見直し、改善することができると指摘されました。

最終日は立命館大学の谷晋二教授の「発達障がいのある子どもとその家族への支援」がテーマ。子育てのスキルを伝えることがこれからの子育て支援には欠かせないとしたうえ、スキルとは「褒める」「スマールステップを作る」「適切な援助(プロンプト)」「環境の調整」である

**職員満足度を高める努力を！**  
**結果よりプロセスを重視**  
**ほめる・適切な援助が大切**  
—専門性を高める連続研修—

2日目は、大妻女子大学の岡健教授の「保育の質を高める園内研修」。保育園は人を育てる場所であり、保育指針は、何ができたかではなく、できるまでのプロセスを大切にすることと

ことと多くのワークを通して指導されました。(泉佐野市 なかよし保育園)



# 大切なうなずき合い・目に見えない

## 「心、見方、考え方」を育てよ

### —「乳児保育のとらえ方」テーマに保育士研修会



松本氏は最後に、個人を尊重しすぎるあまり、好きなことだけをして何がいけないの？といった子どもが増え、集団生活になじめない子が少なくないことに触

れ、一人一人と信頼関係を築いたうえ、ルールを決めてけじめをつけ、集団の活動を、心を豊かにするために活かす保育が求められると締めくくられました。

保育士研修会が6月25日、大阪教育大学の松本勝信名誉教授を講師に迎え大阪国際交流センターで行われました。テーマは「乳児保育における子どもの育ちのとらえ方と保育のしかた」。

3歳未満児の「養護」について、食事・排泄・睡眠・安全の生活面はもちろんですが、「遊び」を通し子どもと十分に関わり、子どもの話に耳を傾け共感し、情緒の安定をはかり「心を豊かにすること」が大切と強調されました。

松本氏は、子どもの成長過程で自己を十分に発揮するためには、子どもたちの生理的欲求、何かをできるようにしたいという思い、それを大好きな人に認められたいという気持ちを満たすことが重要で、それが信頼関係にもつながると指摘しました。目に見える知識や技能をつめ込むだけでなく、目に見えない「心、見方、考え方」を育てることが大切ということ。

乳児の多い保育園で一人一人と時間をかけ関わるのは難しいことですが、一つでも多く子どもの気持ちを受けとめ共感し、うなずき合いの機会を増やし、けじめをつけて保育することの大切さを改めて考える良い機会になりました。

「見える姿だけから保育していないか？」と自問自答し、子どもだけでなく、保護者や保育士同士でも「うなずき合いでコミュニケーション」を図ることを心がけ、今後の保育に努めたいと感じました。

（松原市 新堂保育園）

自然に肉体和生命をもった身体として出現します。感覚は、明らかに身体に所属し、受胎後4〜5か月で出現し始めることがわかっています。しかしながら、へその緒を通して母体と一

体であった身体は、誕生によって母体と分離し、社会的存在となり、母体とは別の身体、別の感覚となります。

生まれてすぐの乳児は、「ひとみしり」はまだしません。自己の尊厳において母体を求め、鼻をひくひくと母親の身体にすりつけ、において仕分けしている姿が見られます。その生まれたての小さな身体の弱々しい乳児が、一体であったはずの母体を求めて懸命に鼻をすりつけ母親の身体を捜し求める姿に、思わず「いとおいしい」と思う心が発露されます。この一体感と言う感覚がヒトとしての乳児の「本当の自信」であり、弁証法的ですが、「つながりの中で育つ」ということです。すなわち、乳児のヒ

トとしての自己の位置づけはここにあり、だからこそ「乳児は、ヒトとして他者の存在を認める力がある」と考えられます。

「泣き癖がつく」ということを聞きますが、乳児にとって、「泣く」は単なる「泣く」ではありません。0歳は、「言葉」という言語記号は持っていませんが、

「泣く」行為やそれに変わる行為はしません。自己表現がないため、受け止めてもらうことがなく、それゆえに「情動」の芽生えもありません。ヒトである乳児は、「泣く」「空腹感」「抱っこしてほしい」という欲求、感覚が芽生えることによって、自己表現を行い、生きる力としての自信をもちます。

泣くことで意思伝達のツールとなる「記号」を使っていると考えられます。自己の尊厳と自信は、この「泣く」という乳児の自己表現を適切に他者に受け止めてもらうことである。「泣いたらこのヒトが受け止めてくれた」「泣いたらこのヒトが抱いていい気持ちにしてくれた」ということを乳児自身が学習しているのです。その学習によって好きな大人を選び、好きな大人との関係が「つながりの中で育つ」のです。一方、自然界における生命ある存在は他にもあります。しかしながら、自己表現である「泣く」行為やそれに変わる行為はしません。自己表現がないため、受け止めてもらうことがなく、それゆえに「情動」の芽生えもありません。ヒトである乳児は、「泣く」「空腹感」「抱っこしてほしい」という欲求、感覚が芽生えることによって、自己表現を行い、生きる力としての自信をもちます。

泣くことで意思伝達のツールとなる「記号」を使っていると考えられます。自己の尊厳と自信は、この「泣く」という乳児の自己表現を適切に他者に受け止めてもらうことである。「泣いたらこのヒトが受け止めてくれた」「泣いたらこのヒトが抱いていい気持ちにしてくれた」ということを乳児自身が学習しているのです。その学習によって好きな大人を選び、好きな大人との関係が「つながりの中で育つ」のです。一方、自然界における生命ある存在は他にもあります。しかしながら、自己表現である「泣く」行為やそれに変わる行為はしません。自己表現がないため、受け止めてもらうことがなく、それゆえに「情動」の芽生えもありません。ヒトである乳児は、「泣く」「空腹感」「抱っこしてほしい」という欲求、感覚が芽生えることによって、自己表現を行い、生きる力としての自信をもちます。



大阪総合保育大学 大方美香 教授

### 学びシリーズ② 子どもの発達に即した 保育について④



泣くこと、自己表現は、この「泣く」という乳児の自己表現を適切に他者に受け止めてもらうことである。「泣いたらこのヒトが受け止めてくれた」「泣いたらこのヒトが抱いていい気持ちにしてくれた」ということを乳児自身が学習しているのです。その学習によって好きな大人を選び、好きな大人との関係が「つながりの中で育つ」のです。一方、自然界における生命ある存在は他にもあります。しかしながら、自己表現である「泣く」行為やそれに変わる行為はしません。自己表現がないため、受け止めてもらうことがなく、それゆえに「情動」の芽生えもありません。ヒトである乳児は、「泣く」「空腹感」「抱っこしてほしい」という欲求、感覚が芽生えることによって、自己表現を行い、生きる力としての自信をもちます。

泣くこと、自己表現は、この「泣く」という乳児の自己表現を適切に他者に受け止めてもらうことである。「泣いたらこのヒトが受け止めてくれた」「泣いたらこのヒトが抱いていい気持ちにしてくれた」ということを乳児自身が学習しているのです。その学習によって好きな大人を選び、好きな大人との関係が「つながりの中で育つ」のです。一方、自然界における生命ある存在は他にもあります。しかしながら、自己表現である「泣く」行為やそれに変わる行為はしません。自己表現がないため、受け止めてもらうことがなく、それゆえに「情動」の芽生えもありません。ヒトである乳児は、「泣く」「空腹感」「抱っこしてほしい」という欲求、感覚が芽生えることによって、自己表現を行い、生きる力としての自信をもちます。

泣くこと、自己表現は、この「泣く」という乳児の自己表現を適切に他者に受け止めてもらうことである。「泣いたらこのヒトが受け止めてくれた」「泣いたらこのヒトが抱いていい気持ちにしてくれた」ということを乳児自身が学習しているのです。その学習によって好きな大人を選び、好きな大人との関係が「つながりの中で育つ」のです。一方、自然界における生命ある存在は他にもあります。しかしながら、自己表現である「泣く」行為やそれに変わる行為はしません。自己表現がないため、受け止めてもらうことがなく、それゆえに「情動」の芽生えもありません。ヒトである乳児は、「泣く」「空腹感」「抱っこしてほしい」という欲求、感覚が芽生えることによって、自己表現を行い、生きる力としての自信をもちます。

泣くこと、自己表現は、この「泣く」という乳児の自己表現を適切に他者に受け止めてもらうことである。「泣いたらこのヒトが受け止めてくれた」「泣いたらこのヒトが抱いていい気持ちにしてくれた」ということを乳児自身が学習しているのです。その学習によって好きな大人を選び、好きな大人との関係が「つながりの中で育つ」のです。一方、自然界における生命ある存在は他にもあります。しかしながら、自己表現である「泣く」行為やそれに変わる行為はしません。自己表現がないため、受け止めてもらうことがなく、それゆえに「情動」の芽生えもありません。ヒトである乳児は、「泣く」「空腹感」「抱っこしてほしい」という欲求、感覚が芽生えることによって、自己表現を行い、生きる力としての自信をもちます。

# 楽しい保育活動

## 伝統の「七夕」に食を楽しむ 手影絵や詩の朗読で盛り上げ



願いごとを書いた短冊を大笹に取り付けた七夕まつり。今年も地域の親子37組、園児170人が参加。ホールでは年長児が緊張しながらキラキラ星をトーンチャイムで演奏、「天の川はるか（のはらうた）の詩を朗読しました。

親子、園児一緒に「七夕」の歌をうたい、一、二年目のフレッシユ保育士が演じる影絵と劇では「織姫、彦（吹田市 南ヶ丘保育園）」

## 盗まれた星をさがせ！ 『わんぱくだん』大活躍のお泊り保育

お泊り保育の二週間前、絵本の「わんぱく団」から5歳児に「一緒に盗まれた星を探してほしい」という手紙が届き、子どもたちも『わんぱくだん』を結成しやる気満々。手紙が届いた



しらすぎ保育園では40年前から食育に力を入れていきます。栄養士中心に食育研究グループを作り、アレルギーや添加物など食品や食事についての知識を深めてきました。この数年は「園児にもわかりやすい食育」を目指し、テーマを決

## 保育の あんな工夫 こんな工夫



このお魚、本物!?  
お買い物グッズ並べお店屋さんごっこ  
遊び感覚で学ぶ食育

果物・パン・調味料・麺類・お菓子などを並べ、「いらっしゃいませ」「何にしましょう?」と掛け声もにぎやかにお店屋さんごっこが始まります。

お客さんが「買いすぎてお金がなくなっちゃったんです」と相談すると「じゃあないパンもつて帰り」という優しいお店屋さん。

クラス単位でも縦割りで遊べるうえ、年長児と親子になってお買い物ができるので年少クラスの子どもたちも心待ちにしています。遊び感覚の食育は子どもたちの記憶の中に強く根付いてゆくものです。今後とも継続的に進めていこうと思っています。

(堺市 しらすぎ保育園)

びに暗号を解いたり、合言葉覚えて覚えたり。いよいよお泊り保育当日。万博公園へ行くと、太陽の塔の前に「どろぼうが保育園に星を隠したらしい」というメッセージがあり、子どもたちは大興奮。キャンプファイヤーの終盤、わんぱく団から地図が届き、早速その地図を手に子どもたちは園内探検へ。園の中で一番空に近いベラ

ンダでキラッと光る星が見つかり、一人ひとり星のかけらを手にお泊り保育は最高潮に達しました。お泊り保育の活動は、みんなが力を合わせ達成感を味わえる行事にと、子どもたちのワクワクする姿を楽しみに工夫を凝らしています。子どもたちには忘れられない楽しい思い出になることでしょう。

(茨木市 彩都保育園)

## 編集後記

もう秋です。今年も猛暑続き。夕立が降ってくればと思っていると、局所的に大雨が降り、落雷も。お迎えの保護者もしばし雨宿り。皆様のお園はいかがでしたか。被害にあわれた園の方、お見舞い申しあげます。

今年は、ロンドンオリンピックで、日本選手の活躍が感動と元気を与えてくれました。私たち保育者は、子どもたちに勇気と感動を伝えられる一人になるために質を高めたものです。保育士会も園長・リーダー・主任保育士連続研修会を無事終えることができました。多数のご参加ありがとうございました。まだまだ研修を予定しています。さらなる実りある保育を目指して頑張りましょう!

おおさか食育フェスタ  
8月1日(水)に大丸心斎橋店で開催されました。



## お詫びと訂正

「ほほえみ」第90号(平成24年5月1日発行)2面「第38回全国保育士研修会」の記事の一部に誤りがありましたのでお詫びし訂正します。

誤 厚生労働省雇用均等・児童課程局  
正 厚生労働省雇用均等・児童家庭局